

平成27年度石巻市震災復興推進会議 会議要旨

- 1 日時 平成27年5月24日（日）14時～16時30分
- 2 場所 石巻市役所4階 庁議室
- 3 出席者 【委員】 20名
【オブザーバー】 宮城復興局石巻支所
【市】 市長、復興政策部長、復興事業部長、事務局（復興政策課）

4 会議概要

会議に先立ち、市長から委員に委嘱状の交付を行った。

(1) 会長及び副会長の選出について

市長が仮議長となり、会長に小野田委員、副会長に木村委員を選出する。

【会長あいさつ】

- ・ 復興は道半ばであり、難しい問題が山積している。
- ・ この会議は、復興の進捗状況について市民の代表である委員がチェックすることとなるが、市に対して一方的に意見を言うだけでなく、また、市の言うとおりに従うものでもない。対等なパートナーとして、ともに復興に向けて進んでいくものだと考えている。忌憚のないご意見をお願いしたい。
- ・ 副会長の木村委員は、牡鹿に生まれ、石巻市の歴史、文化も熟知している。東松島市の教育長も務められ、行政経験も豊富であるので頼りにしている。

(2) 石巻市震災復興推進会議について【復興政策課長説明】

特に意見なし

(3) 震災復興基本計画及び実施計画について（資料2）【復興政策課課長補佐説明】

(4) 石巻市の復興状況について（資料3）【復興政策課長、復興政策部長説明】

【会長】

- ・ 震災復興基本計画の大綱に基づき、4点（防災安全、住まいの問題、業について、未来に向けて）について、委員の皆さんの意見を聞いていきたい。

～①防災安全関係～

【委員】

- ・ 牡鹿地区では、防潮堤に関しては県・市管理のものがあるが、計画通り進めていただきたい。防災面では、県道石巻鮎川線と県道女川牡鹿線の幹線道路があるが、女川原子力発電所を抱えていることから、この両県道を接続する横断道路が必要であると考えている。

【委員】

- ・ 防潮堤がまだであるが、本当に出来るのかという不安がある。防潮堤の高さについても議論がある。環境保全の方でも低平地をどうするか話し合っている。雄勝に戻るような施策を考えていかないといかない。交流人口を増やすにしても、その成り手がいない。少ない人口でも雄勝を残していく必要がある。

【委員】

- ・ 復興庁の資料にかなり厳しいことが書かれている。被災地の人間は、財源が国民の負担であることを忘れたことはなく、無駄に使おうなどとは思っていない、官だけでなく民も一体となって声を上げていく必要がある。
- ・ 防潮堤の高さについては、専門的な知見から決定していると認識している。その一方で、各地区から人が離れていっている。その場所で育った住民がもう一度戻ってくるような後背地の形成について、納得ができる、説明が必要な時期に入ってきていると感じる。

【復興政策部長】

- ・ 防潮堤については、後背地に守るべきものがない場合、一部見直しをかけている。低平地の整備については、現在、住民の方々に説明を行っている最中である。

【委員】

- ・ 北上の防潮堤については一部完成している。8.4メートルの高さだと見上げる構造物となっている。実際の津波がそれくらいあったため、必要な高さなのかなと感じている。
- ・ 震災時は情報が大事である。市として、いかに早く提供できるか。以前、防災無線を使わせてほしいと要望したが、その時は目的外で使用することはできないと言われた。震災等の非常時は、食料、物資等をどこでもらうことができるか、素早く知りたい。当時、防災無線を使わせてもらえなかった理由が分かれば教えてほしい。また、震災時は、人の命を守るため、既成概念は取っ払ってほしい。

【復興政策部長】

- ・ 防災無線の使い方については一部要件を見直したと聞いている。総務部に確認し、お示ししたい。無線が聞こえにくいエリアについては、防災ラジオの導入を現在行っ

ている。

【委員】

- ・ 長面海岸については、L1 堤防を設置予定の場所は未だ海である。行方不明者の捜索を早急に行う必要があると考えている。

～②住まいの問題～

【委員】

- ・ 仮設住宅は今後、復興住宅への移行と共に虫食い状態が発生してくる。集約の方向性、時期について教えてほしい。

【復興政策部長】

- ・ 集約については、昨年度から取り組んでいるところである。現在、応急仮設住宅へは全体の8割が入居している。この方々の入居状況やどういう状況で復興公営住宅に移動するのか調査している。具体的な方向性を今後、出していきたいが、時期についてはまだ決まっていないのでご理解いただきたい。

【委員】

- ・ 現場では、昼夜巡回しても分からないこともある。安全対策を行っているが、放火等の二次被害の恐れがある。今までも違法駐車等の問題があった。空室の管理を市と現場で連携しながら行ってほしい。

【委員】

- ・ 町内の復興公営住宅に48世帯が入居し、交流を図ってきた。今年8月に新たに28世帯が入ってくる。改めて、交流会を年5回設け、町内、地域の状況を説明し、町内に溶け込んでほしいと考えている。
- ・ 体、心、金（生活、雇用）の安心は、今後、大きな問題になっていくと感じている。支援が遅れないように、企業の誘致や雇用の促進等を行うことが必要である。
- ・ 市とは、健康推進課、包括ケア推進室、また社会福祉協議会と情報共有している。

【委員】

- ・ 復興公営住宅に移動した身障者から、住宅のバリアフリーについて好評と聞いている。御礼申し上げる。また、障害者はなかなかコミュニティに溶け込めない、市からの情報伝達についても逃しやすい。可能ならば防災無線（戸別無線）を障害者宅全戸につけていただきたい。

【部長】

- ・ 防災無線については、旧町において各戸に設置しているところであるが、地域によ

っては聞き取りづらい等といった問題もあるため、現在は、防災ラジオの設置に取り組んでいる。災害についてのみの情報になるので、その他の行政情報については、市報等で情報を得てほしい。

【委員】

- ・ 社協では、被災者支援ということで、仮設等の見守り支援等を行っている。また、コミュニティの課題があり、地域福祉コーディネーター10名ほど配置して、地域との繋ぎの部分をお願いしている。4月からは生協と連携し、小さなコミュニティを再生する支援を行っている。

～③生業の再生について～

【委員】

- ・ 震災後、漁業者（組合員）が減少しており、後継者作りに苦慮している。風評被害もある。漁協としては、浜に賑わいを戻す取り組みをしている。

【市長】

- ・ 仕事作りが重要である。石巻市は農林水産業のバランスが良い。今後は、担い手育成事業等を通じて、漁業、農業体験等をし、将来の担い手育成を考えている。
- ・ 行政だけでは出来ないので漁協にも協力していただきたい。

【委員】

- ・ 農地としては12,300ヘクタールのうち、3,800ヘクタールが被災している。園芸の部分については、おおむね復旧した。水田については、まだまだ復旧していないことを懸念している。復興特需と言われているが、特需が終わった後が心配である。

【委員】

- ・ 立町一丁目の再開発の件についてはご心配をおかけしている。再開発については、1件でも反対者がいると、実施することができない。2年にわたって議論してきたが、当初の案は撤廃し、計画を作成しなおすこととなった。
- ・ 商工会議所を橋通り北側に移すことを検討している。生鮮マーケットも着々と進めている。駅前から立町、川通りまでをも魅力あるものにするよう努力している。

～④未来のために～

【委員】

- ・ 子どもを育てているお母さん方のサポートという面から活動している。
- ・ 子どもたちにスポットが当たりがちであるが、実際は、子どもを育てる保護者も一緒にサポートする必要がある。
- ・ 公営住宅については、支援にも偏りがあるようで、すでに欠陥住宅（雨漏り等）に

についても声が聞こえてきている。単身世帯については今後、高齢化していくと孤独化していくことから、何か良い施策があればいいと思う。

【委員】

- ・ 復興事業は着実に進んでいると思っている。集中復興期間が今年度で終了するが、長いスパンで支援をお願いしたい。

【委員】

- ・ 自分も仮設住宅から復興住宅に移ったが、まだ集会所の使い方等が決まっていない。

【委員】

- ・ 仮設住宅に入ってから、母の認知症が進んだ。自宅を再建し、環境が変われば改善すると思ったが、改善しなかった。当時の見回り隊の活動ももう少し効果的に行うことができたのではないかと思うこともある。

【委員】

- ・ 自分は着物の着付けなどを通じて人々と繋がっている。小学校の授業等で講習させていただいたりしながら、地域活動をしているが、こういった活動が心の豊かさの復興につながっているのではないかと思っている。

【委員】

- ・ 震災時、道具がない、場所がないという状況下で活動が停滞した。支援の人々に助けられながらも、どこまで文化活動を行っていいのかという問題もあったが、人々の生活に根差した文化は強いと改めて認識した。
- ・ 現在、文化センターや市民会館がなくなり、発表する場所がない。複合文化施設の検討をしているが、石巻人としての誇りを取り戻すことが大事である。

【会長】

- ・ 復興事業を進めるにあたっては、華美なものは避けるように言われていると思われるが、そのあたりは、セットになっている。

(5) 今後のスケジュールについて (事務局説明)

(6) その他

【委員】

- ・ 会議の開始時間が午後2時というのはいかがなものか。会議資料についても事前に送付してもらいたい。

【事務局】

- ・ 会議の開催日程については、今後は平日の夕方なども考慮している。
- ・ 会議資料についても、今回は委員が交代して第1回目ということで席上配布としたが、次回以降は事前配布できるよう調整したい。

【会長】

- ・ 限られた時間の中で会議を進める必要があるので、テーマを細かくするならば、専門部会を立ち上げた方が良いのかなという検討も必要であろうと思う。

4 閉会のあいさつ

【副会長】

- ・ 何か石巻のために役に立ちたいと思っていた。
- ・ 震災があったからこそ、こういう街が出来たといえるようにしていきたい。趣旨を踏まえながら、建設的な意見をいただき、すばらしい石巻を皆さんと一緒に作ってきたい。